

情報技術と農業の展望 (実習の進捗発表)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-05-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小林, 優真, 水木, 玲於奈, 永井, 優太, 菅沼, 雅貴 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00027429

情報技術と農業の展望

小林優真(情報社会学科), 水木玲於奈(情報社会学科), 永井優太(情報科学科), 菅沼雅貴(情報科学科)

現在の農業の形態には, 農業人口の減少, 若者の農業離れ, 自給率の低下といった問題点がある. しかし, そのような問題点は「スマート農業」により解決できると考える. 例えば AI による無人農業や品種改良などである. ここで私たちは 20 年後の農業として, 企業主体の農業の発展を予測した. 現在, 海外の大学と企業が連携して, 無人型農業プロジェクトを推進している. (参考 URL:<https://www.handsfreehectare.com/>, 最終閲覧日 12/16) そのプロジェクトでは, 予め技術者が用意したプログラムや AI によって無人機械を動かし, 管理者は異常がないかをモニターするという形式の農業の検証が進められている. 私たちはこれが将来の農業モデルになると考える. また, 企業主体の農業では, 資金を多く持つ企業が広大な土地を買い取り, その企業の技術部が上述のような無人型農業を実行するというシステムが構築されるものと考え. 20 年後, 上述のようなスマート農業により, 現在の農業の問題点は解決されていると予測する.

(学習マネジメント, 担当教員: 宮崎真)